

1. 医学部医学科教育

平成14年度に新しいカリキュラムに基づく全学教育並びに専門教育授業が導入され、本年度末、初めての卒業生を送り出した。平成14年に入学した95名のうち、ストレートで卒業した学生は66名(69%)であった。この学年は、2年次から3年次に進級する時に22名が留年となった。新しい進級要件に学生が対応できなかったことがひとつの要因である。しかしながら、ストレートで卒業した学生の国家試験合格率は95.5%と全国的にも遜色はなく、医学科教育が妥当なレベルで行なわれていることを示唆している。新カリキュラムについては、引き続き学年において修正、整備が行なわれている。一方、医学教育改革に対する社会的要求はとどまるところを知らず、緊急性も高い。また、保健学科、薬学部、歯学部のカリキュラムの再編成にともない、医学科教員が他学部の教育にも関与する機会が増加している。そこで、平成19年度、医歯薬学部が共同して生命科学医療教育センターを設立し、共修科目の調整や新たなカリキュラムの導入について協議を開始した。

(平成19年度 医学部長：河野 茂、教務委員長：下川 功、学生委員長：小澤寛樹、
入試委員長：青柳 潔)

A. 全学教育

平成14年度、大幅改訂に基づく新カリキュラムが施行され6年が経過した。医学部は、全学教育に於いて選択科目群の中核の一つである「人間科学分野」の責任部局として運営を担っている。本年度医学科からは、講義科目ではのべ121名の教員が13科目の授業を担当した。また、17名の医学科教員が教養セミナーを担当した(表1)。新入生を対象に始まった少人数教育「教養セミナー」は、その有効性の評価法と小グループを構成する教員及び学生の専門性の違いに関する問題点を含んでいることは以前から指摘されていた。学生の初期教育や卒業後のチーム医療を考え、医歯薬学学生による教養セミナーの実施や他科目の共修について検討を開始した。

B. 専門教育

平成14年度より1年次では、全学教育授業日が週3日間に減り専門教育授業日が週2日間に増加すると共に、新カリキュラムが導入されている。従来全学教育で行われていた専門準備科目がなくなり、以前から行われている「人間生物学」に加えて「細胞生物学」「医学統計学」「生物化学」「生物・化学実習」が新たに専門科目に付け加えられた。特に、長崎大学医学部医学科の特色ある教育として「原爆医学概論」が平成14年度から、また「医学は長崎から」が平成15年度から新規科目として開始された。1年次「医と社会」では、医学科・保健学科の共修の授業も企画された。また、学生による授業評価と表裏一体をなすものとして学生の成績評価の厳格化が求められ、2年次から3年次への進級バリアーが新たに設けられた。新カリキュラム2年次及び3年次に於いては、基本的には従来の枠組みを維持しながら、コア・カリキュラムの積極的な活用による授業時間の短縮を行い、一方でより進んだ内容を少人数グループ形式の選択必須科目と

して提供する「医学ゼミ」を平成15年度から導入した。3年次のリサーチセミナーでは、今年度、学生の希望を優先したため、教室によって偏りが生じた。教育効果という点では、今後、検討が必要である。また、総計11名の学生が海外実習に参加した（表3）。臨床実習協定締結施設は57施設に増加し、臨床教授・臨床准教授は27名となった（表4）。

平成19年度の卒業生は79名でその国家試験合格率は93.5%であった（既卒者を加えると87.4%）。

C. 共用試験

本年度は昨年度と同様に「臨床実習開始前の共用試験」の問題作成と共用試験が行われた。共用試験とは、知識・技能・態度をコンピューター試験（CBT）と客観的臨床能力試験（OSCE）の二本立てで評価するものである。CBT実施に向けて本学にも100題以上の問題作成が依頼され、CBT問題作成委員会を組織して問題作成及びそのブラッシュアップを行った。また、CBTは、共用試験実施機構からの派遣監督者の出席のもと、平成20年1月22日、23日の2回に分けて実施し、再試験は2月27日に行われた。OSCEは、4年次後期科目「診断学」の試験として実施され、外部評価者として6名の評価委員が参加した。この共用試験は4年次から5年次への進級要件となっているが、受験者全員が合格した。

D. 医学教育高度化への試みと第7回医学部医学科FDの実施について

課題探索・自己問題解決型学習能力の賦与、全人的医療人教育の場としての離島活用及び臨床実習の高度化を目指し、平成16年度から5年次各科ローテーションを従来の13組各3週から14組各2週に短縮し、5年次にProblem Based Learning（PBL）チュートリアルを導入すると共に、一週間にわたる離島医療実習を新たに開講した。更に6年次に高次臨床を実施した。特にこの離島医療実習への取り組みは、平成16年度特色ある大学教育支援プログラムに採択された。

また、医師国家試験の実施時期の繰り上げと受験回数制限及び本学に於ける合格率の低迷を受けて、最終試験（卒業試験）のあり方に関して総合試験の導入と卒業判定のあり方について決定した。

第7回医学科FDでは、本学科、安武 亨准教授による「最近の医師国家試験の動向」、永山雄二教授による「共用試験のためのCBT問題作成法解説」の2つの講演が行われた。その後ワークショップと全体討論を行った。今回のFDでは、43名が出席し、熱心な議論を行った。これらの討議内容が、本学医学教育の更なる改革に向けた有効な一手につながる事を祈念する。

（文責：医学部医学科 教務委員長 下川 功）

表1 平成19年度 医学部医学科教員の全学教育への参画

A. 全学教育授業科目担当の医学部医学科教員

分野	授業科目名	担 当 教 員
共通基礎科目	教養セミナー	永山 雄二、高村 昇、岡本 圭史、中村 龍文、隈上 秀高、磯本 一郎、川崎 浩二、柴田 治、重松 和人、西田 教行、津田 亮一、廣瀬 龍一郎、竹中 基、隈上 武志、矢野 浩規、福島 千鶴、田川 努
	教養特別講義	相川 忠臣、岡市 協生
情報処理科目	情報処理入門	三根眞理子
健康・スポーツ科学科目	健康科学	青柳 潔、中尾 一彦、中根 秀之、長谷 敦子、難波 裕幸、牧山 和也、大曲 勝久、趙 成三、中山 大介、原 哲也、槇田 徹次、三浦 清徳、柳原 克紀、山近 史郎、吉村 篤利、安部 恵代、井上 統夫、黒木 麗喜、黒滝 直弘、山本 智一、吉田 敦
人間科学科目	人間の科学	小澤 寛樹、森 望、永田 泉、中園 一郎、下川 功、中根 秀之、池松 和哉、野俣 浩一郎、大津留 晶、難波 裕幸、酒井 英樹、田川 正人、岡田 雅彦、岩永 正子、光武 範吏、本村 克明
	生体の機能	丹羽 正美、佐々木 均、北岡 隆、澄川 耕二、高橋 晴雄、近藤 宇史、金武 洋、永田 泉、井原 義人、瀬戸 信二、野俣 浩一郎、堤 圭介、山下 康子、田中 邦彦、上園 保仁、林 日出喜、宮崎 泰司、塚崎 邦弘、小出 優史、錦戸 雅春、松尾 孝之、伊東 勉、北川 直毅、本村 政勝、泉川 公一、江口 二郎、宮田 康好、野口 満、牛島 隆二郎
	生命の科学	由井 克之、中込 治、兼松 隆之、江石 清行、中込とよ子、松本 逸郎、本間 季里、宮崎 泰司、長井 一浩、境 徹也
	人間と環境	中根 秀之、今村 明、山本 智一
	生体の構造	小路 武彦、松山 俊文、関根 一郎、篠原 一之、北岡 隆、森 望、菱川 善隆、中山 敏幸、中島 正洋、岡田 雅彦、崎浜 教之、森山 伸吾、西谷 正太、土居 裕和、北島 道夫、江口 二郎
自然科学科目	生物の科学	伊藤 敬、岡市協生
総合科学科目	放射能の光と影	上谷雅孝、三根眞理子
	東西科学文化交流史	相川忠臣
	現代の生命像	兼松隆之

B. 全学教育関連委員会の医学部医学科委員

委 員 会		委 員
全学教育実施委員会		下川 功 (教務委員長)
全学教育実施委員会 (科目別専門委員会)	教養セミナー専門委員会委員	永山 雄二
	教養特別講義専門委員会委員	山下 俊一
	情報処理科目専門委員会委員	三根 真理子
	健康・スポーツ科学専門委員会委員	弦本 敏行
	外国語科目専門委員会委員	松山 俊文
	人文・社会科学専門委員会委員	岡本 圭史
	人間科学専門委員会委員	森 望
		篠原 一之
		酒井 英樹
	自然科学専門委員会委員	佐々木 均
		伊藤 敬
		佐藤 伸一
総合科学専門委員会委員	丹羽 正美	
留学生用科目専門委員会委員	由井 克之	

表2 平成19年度 1～6年次授業科目(系) 責任者

学年	授業科目	責任者	学年	授業科目	責任者
1年次	医と社会(医学入門)	小澤 寛樹	4年次	耳鼻咽喉口腔系	高橋 晴雄
	人間生物学	伊藤 敬		免疫・アレルギー疾患系	江口 勝美
	細胞生物学	山下 俊一		皮膚系	佐藤 伸一
	医学統計学	柴田 義貞		精神系	小澤 寛樹
	生物化学	伊藤 敬		小児系	森内 浩幸
	生物・化学実習	伊藤 敬		感染症系	中込 治
	原爆医学概論	朝長 万左男		法医学系	中園 一郎
	医学は長崎から	相川 忠臣・小路 武彦		診断学	大園 恵幸
	人体構造系I	岡本 圭史		放射線医学	上谷 雅孝
2年次	医と社会	中園 一郎・難波 裕幸	臨床検査医学	上平 憲	
	人体構造系II	岡本 圭史	外科治療学	兼松 隆之	
	神経・感覚器系	森 望	社会医学	青柳 潔	
	発生・組織系	小路 武彦	医学ゼミ	下川 功	
	動物性機能系	篠原 一之	5年次	臨床疫学・医療情報学	大園 恵幸・本多 正幸
	内臓機能・体液系	相川 忠臣		臨床薬理学	佐々木 均
	生体分子系	伊藤 敬		内科総括講義	江口 勝美
	分子遺伝系	新川 詔夫		精神神経科総括講義	小澤 寛樹
医学ゼミ	下川 功	小児科総括講義		森内 浩幸	
3年次	医と社会	小澤 寛樹・中園 一郎		外科総括講義	兼松 隆之
	医学ゼミ	下川 功		整形外科総括講義	進藤 裕幸
	感染系	片峰 茂		泌尿器科総括講義	金武 洋
	免疫系	由井 克之		眼科総括講義	北岡 隆
	病理総論系	下川 功		産婦人科総括講義	増崎 英明
	腫瘍系	松山 俊文		脳神経外科総括講義	永田 泉
	分子病態系	近藤 宇史		形成外科総括講義	平野 明喜
	環境因子系	岡市 協生		心臓血管外科総括講義	江石 清行
	薬理系	丹羽 正美	東洋医学	丹羽 正美	
	病理各論系	田口 尚	総合病理学	関根 一郎	
	リサーチセミナー	永山 雄二	PBLチュートリアル	小澤 寛樹	
	内分泌・代謝・栄養系	江口 勝美	臨床実習	小澤 寛樹	
	循環器系	瀬戸 信二	6年次	卒前集中講義	下川 功
呼吸器系	河野 茂	高次臨床実習		大園 恵幸	
4年次	血液・リンパ系	朝長 万左男	4年次	医と社会	小澤 寛樹
	脳・神経系	中村 龍文		脳・神経系	中村 龍文
	運動系	進藤 裕幸		運動系	進藤 裕幸
	消化器系	関根 一郎		消化器系	関根 一郎
	腎泌尿器系	金武 洋		腎泌尿器系	金武 洋
	生殖系	増崎 英明		生殖系	増崎 英明
視覚系	北岡 隆	視覚系	北岡 隆		

表3 平成19年度 後期「リサーチセミナー」

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数
解剖学第一	森 望 森 井 博 史	健康寿命シグナルへのカテキンとニコチンの作用	1
解剖学第二	岡 本 圭 史 分 部 哲 秋 佐 伯 和 信	人体の局所解剖	4
解剖学第三	小 路 武 彦 菱 川 善 隆 安 樹 才 佐 藤 陽 子	鉄過剰投与ラット肝臓における脱ヘテロクロマチン化動態の解析	1
	小 路 武 彦 菱 川 善 隆 安 樹 才 佐 藤 陽 子	精子形成細胞におけるエストロゲン様物質のミトコンドリア局在への影響	1
生理学第一	松 本 逸 郎	内因性又は外因性摂食調節（攪乱）物質による摂食行動に及ぼす作用機序の解明	2
	松 本 逸 郎	内因性又は外因性発熱物質による発熱反応の末梢から中枢への伝達機構の解明	3
生理学第二	篠 原 一 之 西 谷 正 太	非侵襲的脳イメージング装置を用いた母子間コミュニケーションの科学	2
	土 居 裕 和	情動反応の個人差とその生理的基盤の解明	2
	中 川 竜 太	ストレンジシチュエーション法における母子愛着行動の解析	2
生 化 学	伊 藤 敬	脱ユビキチン化酵素と遺伝子転写制御	1
薬理学第一	丹 羽 正 美	血液脳関門（BBB）と病態モデル	1
	田 中 邦 彦	癌の浸潤・転移におけるタイトジャンクションの役割	2
	山 下 康 子	虚血性神経細胞死の機序解明と治療薬の探索	1
	中 川 慎 介	血液脳関門（BBB）と薬物の中枢送達	1
薬理学第二	上 園 保 仁	受容体、イオンチャネル活性化の分子機構	2
病理学第一	千 葉 卓 哉	インスリンシグナルを介した老化制御機構の解析	1
病理学第二	田 口 尚	糸球体腎炎の病理学的研究	1
公衆衛生学	青 柳 潔 叶 兆 嘉	生活習慣病の医療費分析	1
	高 村 昇	生活習慣病の分子疫学	2
	安 部 恵 代 富 田 雅 人	生活習慣病と腰痛	1
免疫機能制御学 （医動物）	都 田 真 奈	マラリア感染におけるCD 8+ T細胞の機能解析	1

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数
免疫機能制御学 (医動物)	木村大輔 由井克之	マラリア感染により誘導される新規制御性CD 4+ T細胞の機能解析	2
法医学	中園一郎 津田亮一 池松和哉	FFPE標本からの蛋白質定量的解析	1
	中園一郎 津田亮一 池松和哉	マウス損傷皮膚におけるncRNAの経時的解析	1
	中園一郎 津田亮一 池松和哉	窒息時の生体反応機構の解明	1
原研病理	中山敏幸	マウスおよび培養細胞を用いた放射線感受性の検討	1
	七條和子	放射線による遺伝子不安定と組織障害	1
原研放射	岡市協生	変異p53の機能解析	1
原研生化	後藤信治 浦田芳重 陰山寛史 近藤宇史	治療に抵抗するがん細胞の細胞応答の仕組み	1
	浦田芳重 後藤信治 陰山寛史 近藤宇史	酸化ストレスに対する細胞応答-血管老化と平滑筋細胞の形質転換	1
原研遺伝	吉浦孝一郎	Kabuki症候群の遺伝子解析	2
	木下晃	骨系統疾患の原因遺伝子機能解析	1
原研細胞	山下俊一	食欲関連ホルモンの生理学的研究	2
	鈴木啓司	放射線治療による癌細胞死の分子機構の解明	2
	光武範吏	甲状腺がん発症の分子機構の解明	2
原研分子	永山雄二 斉藤巨樹	①マウスモデルを用いた自己免疫性甲状腺疾患の研究：IL-17ノックアウトマウスを用いて、②Cre組換えアデノウイルス作製とそれを用いた遺伝子発現調節	2
感染防御	林日出喜	カスパーゼを活性化する分子のクローニング	1
	安井潔	NF- κ Bカスケード阻害物質のスクリーニング	1
	河野友子	急性膵炎発症におけるIRF-2の役割	1
感染分子	西田教行	プリオンの感染メカニズム	1
分子疫学	中込治 中込とよ子 モハマタドレーザ・ナギポール マブブ・アラム	感染症の疫学および分子疫学	3

教室名	指導教員	研究テーマ	受講学生数
先導生命 比較動物医学分野	佐藤 浩 大沢 一貴	チンパンジーヘルペスウイルスの特徴	1
先導生命 ゲノム機能開発分野	木住野 達也 近藤 新二	マウス初期胚操作とエピジェネティクス解析	1
先導生命 アイソトープリ ソース開発分野	松田 尚樹	細胞のストレス応答	1
	吉田 正博 松田 尚樹	放射線吸収線量評価	1
熱研 分子構造	森田 公一 井上 真吾	日本脳炎ウイルスの分子疫学研究	2
熱研 病原因子	平山 壽哉	Helicobacter pylori が産生する VacA 毒素の毒性発現機序解析	1
熱研 感染細胞	金子 修 上村 春樹 中澤 秀介	マラリア原虫の遺伝子多型	3
熱研 寄生行動	渡部 幹次 青木 克己	新しい住血吸虫症対策法、匭貝、の基礎研究	2
	三井 義則	Brugia pahangi (糸状虫) の感染幼虫に対する忌避剤の研究	1
熱研 炎症細胞	中村 三千男	パソコンによる転写因子のDNA結合配列の最適化	1
	栗林 太	NADPH oxidase の活性化機構の解析	1
	藤井 仁人	新奇GT mismatches結合タンパク質 (nGTBP) の構造・機能解析	1
熱研 生物環境	高木 正洋	感染症媒介蚊の生態・行動研究 (1)	2
	川田 均	感染症媒介蚊の生態・行動の研究 (2)	2
熱研 社会環境	溝田 勉	「人間の安全保障」社会環境疫学	3
	後藤 健介	社会環境変動調査の疾病対策活用への試み	2
	依田 健志	国際保健に対する医学生の意識調査	1
熱研 疾病生態	菊池 三穂子 平山 謙二	日本住血吸虫の放射線照射セルカリアに誘導されるT細胞依存性感染防御機構の解析	2
	菊池 三穂子 平山 謙二	慢性シャーガス病発症を規定する宿主遺伝要因の解析	2
	NguyenTienHuy・ 平山 謙二	新規抗マラリア薬の開発	1
長崎大学病院 病理部	林 徳真吉 安倍 邦子	1) 診療における病理診断の位置づけと役割の認識 2) 臨床一病理症例カンファレンスで症例呈示 3) 日本語または英語で症例報告執筆	2

海外派遣実習生

大学名・地域	実習学生数
ライデン大学	4
ビュルツブルグ	2
ドイツ	1
ベトナム	2
オランダ	2
合 計	11

※交流協定による海外派遣

※交流協定による海外派遣

表4 A 平成19年度長崎大学医学部臨床実習協定締結施設

	施設名	協定年月日
1	長崎市立市民病院	平成8年5月31日
2	日本赤十字社 長崎原爆病院	平成8年5月31日
3	長崎市立病院成人病センター	平成8年6月1日
4	長崎県立大村病院	平成8年6月1日
5	社会福祉法人 長崎市障害福祉センター	平成8年6月1日
6	財団法人 長崎県総合保健センター	平成8年6月1日
7	医療法人春回会 長崎北病院	平成10年5月20日
8	江上耳鼻咽喉科医院	平成11年5月31日
9	医療法人祥仁会 西諫早病院	平成12年6月19日
10	医療法人白十字会 佐世保中央病院	平成12年7月21日
11	長崎市保健所	平成12年11月24日
12	医療法人友愛会 介護老人保健施設にしきの里	平成12年11月24日
13	医療法人清潮会 介護老人保健施設みどりの里	平成12年11月24日
14	日本海員掖済会 長崎病院	平成13年5月11日
15	阿南皮膚科医院	平成13年5月11日
16	医療法人北辰会 久保皮膚科医院	平成13年5月11日
17	国立療養所長崎病院	平成13年5月11日
18	ゆきなり・クリニック	平成13年7月10日
19	虹が丘病院	平成13年8月7日
20	医療法人昌生会 出口病院	平成14年7月18日
21	国立病院長崎医療センター	平成15年6月12日
22	佐世保市立総合病院	平成16年8月1日
23	長崎県五島保健所	平成16年8月1日
24	五島市国民健康保険三井楽診療所	平成16年8月1日
25	五島市国民健康保険玉之浦診療所	平成16年8月1日
26	岐宿町岐宿診療所	平成16年8月1日
27	山内診療所	平成16年8月1日
28	長崎県離島医療圏組合 五島中央病院	平成16年8月1日
29	長崎県離島医療圏組合 富江病院	平成16年8月1日
30	長崎県離島医療圏組合 奈留病院	平成16年8月1日
31	五島市健康政策課	平成16年9月1日
32	五島市社会福祉協議会福江支所	平成16年9月1日
33	離島医療圏組合 上五島病院	平成17年9月1日
34	小値賀町国民健康保険診療所	平成17年9月1日
35	上五島保健所	平成17年9月1日
36	新上五島町健康推進課	平成17年9月1日
37	新上五島町社会福祉協議会	平成17年9月1日
38	上五島保健所長	平成18年7月5日
39	長崎県離島医療圏組合 中対馬病院	平成19年7月2日
40	長崎県離島医療圏組合 上対馬病院	平成19年7月2日
41	社会福祉法人幸生会特別養護老人ホーム わたづみ	平成19年7月2日
42	神田耳鼻咽喉科entクリニック	平成19年7月2日

	施 設 名	協 定 年 月 日
43	重症心身障害児施設みさかえの園 むつみの家	平成19年7月2日
44	長崎県対馬保健所	平成19年7月2日
45	社団法人全国社会保険協会連合会健康保険諫早総合病院	平成19年7月2日
46	豊玉診療所	平成19年7月2日
47	長崎県離島医療圏組合 対馬いづはら病院	平成19年7月2日
48	東京都監察医務院	平成20年3月31日
49	宮崎内科医院	平成20年3月31日
50	医療法人衆和会 桜町クリニック	平成20年3月31日
51	宗教法人聖フランシスコ病院会 聖フランシスコ病院	平成20年3月31日
52	医療法人光善会 長崎百合野病院	平成20年3月31日
53	医療法人栄寿会 真珠園療養所	平成20年3月31日
54	三菱重工業(株)長崎造船所病院	平成20年3月31日
55	医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院	平成20年3月31日
56	みちクリニック	平成20年3月31日
57	すがさきクリニック	平成20年3月31日

B. 平成 19 年度長崎大学医学部臨床教授、臨床准教授一覧

称 号	氏 名	施 設 名
臨床教授	鈴木 伸	長崎市立市民病院
臨床教授	井上 啓爾	長崎市立市民病院
臨床教授	小原 則博	長崎市立市民病院
臨床教授	中島 成人	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	古河 隆二	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	森田 茂樹	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	木下 郁夫	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	鶴田 正太郎	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	田浦 幸一	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	須山 尚史	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	田所 正人	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	高橋 克朗	長崎県立精神医療センター
臨床教授	佐藤 聡	特別医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	江上 徹也	医療法人江上耳鼻咽喉科医院
臨床教授	千葉 憲哉	医療法人祥仁会西諫早病院
臨床教授	植木 幸孝	医療法人白十字会佐世保中央病院
臨床教授	松本 一成	医療法人白十字会佐世保中央病院
臨床教授	藤岡 ひかる	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
臨床教授	上之郷 眞木雄	佐世保市立総合病院
臨床教授	神田 哲郎	長崎県離島医療圏組合五島中央病院
臨床教授	古井 純一郎	長崎県離島医療圏組合五島中央病院
臨床教授	白濱 敏	長崎県離島医療圏組合上五島病院
臨床教授	村瀬 邦彦	長崎県離島医療圏組合中対馬病院
臨床准教授	神田 幸彦	神田耳鼻咽喉科entクリニック
臨床教授	森 正孝	長崎県離島医療圏組合対馬いづはら病院
臨床教授	福田 雅文	みさかえの園むつみの家
臨床教授	近藤 達郎	みさかえの園むつみの家